

山中一馬プロフィール

シテ方金春流

公益社団法人能楽協会 東京支部会員

社団法人日本能楽会 会員

重要無形文化財総合指定保持者

学習院大学法学部卒

故 19 世 櫻間金太郎師及び故 20 世 櫻間辰之師に師事

師に許され、師の本名の「龍馬」にちなみ、舞台名を「一馬」とする

熊本・細川藩、櫻間家の芸統を継承する一人である

21 歳、「小袖曾我」にて初シテ

以降、「石橋」「乱」「安宅」「邯鄲」「角田川」「江口」「望月」等を披演

平成 11 年 6 月 故櫻間辰之三回忌追善能にて「道成寺」を披く

平成 21 年 1 月 金春会定期能にて「翁」を披く

平成 23 年 9 月 文部科学省より重要無形文化財総合指定保持者として認定される

「金春会」を中心に活動、自己研鑽及び後進の育成の場として「櫻詠会」を主催

東京及び牛久市をはじめ茨城県南を中心に能楽の指導・普及に努める

栃木県小山市出身、栃木県立石橋高等学校卒、現在茨城県牛久市在住です

文学座附属演劇研究所 講師（1997～2002）

茨城県民大学 講師、常陽銀行・藝文学苑 講師

学習院大学 能楽研究会 指導顧問

防衛大学校 古典芸能研究会 指導顧問

栃木県下野市 下野エール大使

金春流の始祖は、古文書「明宿集」によれば、聖徳太子の寵臣・秦河勝であったとされる。河勝は太子に従って物部守屋討伐などに功を挙げる一方、太子に命じられて猿楽などの芸能を司り、天下の太平を祈願した。その後河勝の三人の子のうち、末子が猿楽の芸を引き継ぎ、代々継承したといい、村上天皇の代にはその末裔・秦氏安が紫宸殿で「翁」を演じた。この氏安が円満井座の中興の祖となり、代々猿楽の徒として活躍し、現在の金春流へと継承されている。能楽の家としては最も古い家柄である。

櫻間家は、熊本・細川藩に仕えた能の太夫の家柄であり、明治の三名人の一人に謳われた 17 世 櫻間左陣師、18 世 櫻間弓川師（芸術院会員）、櫻間道雄師（人間国宝）等を輩出している。明治以降の混乱した時代にあって、現在の金春流の礎を築いた。

櫻間は「邯鄲」の飛び込み、「道成寺」の斜入等、他には見られない鮮烈な型と流麗な謡を持ち、見所（観客席）を魅了した。



能「安宅」 武蔵坊弁慶 山中一馬